

# 東日本ユニオン よこはま

JR 東日本労働組合  
横浜地方本部  
発行者/ 松田 和秀  
編集者/ 教育・広報



# 謹賀新年

組合員・ご家族、退職者連絡会の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年は JR 東日本労働組合横浜地方本部を結成以来、一貫してこだわり続けてきたスローガン「組合員一人ひとりが職場を拠点とし全組合員参加型の分会運動を通じて組織の強化・拡大を目指そう！」を多くの仲間と取り組みを推し進め、3名の組織拡大に繋がりました。しかし、組織拡大は出来ましたが、定年退職を迎える先輩方も多く、技術継承や職場改善など取り組むべき課題も山積しています。

昨年は、第48回衆議院議員総選挙が行われ、希望の党の結党から民進党の分裂、野党が共同した行動が出来ず、自民党の圧勝という結果となりました。その結果、安倍総理は憲法改正に国民の賛同得たと考え、憲法の改正に向け議論を始めました。今後憲法を守るたたかい・議論をしなければなりません。

「2017年度年末手当」交渉では、JR 東日本の第1・第2四半期決算で、単体・連結ともに営業利益は6期連続の増収かつ第2四半期決算としては過去最高となり、会社のいう「新幹線大規模改修引当金繰入や委託費など営業費が増加」等のマイナス要素はありますが、それを補える利益を出しています。しかし、要求額の3.6ヶ月を大幅に下回る3.18ヶ月の回答を提示しました。会社は支払いの能力はあるにもかかわらず、私たち組合員・社員の想いを聞こうともしません。この現状を打破するためには、分散してしまっている労働組合の力を結集させ「JR労働運動の一元化」に向け、労働者の団結をさらに推し進めていかなければなりません。

「2018春闘」は、連合は中央委員会にて「底上げ・底支え、格差是正に寄与する取り組みを強化して2%程度を基準とし、定期昇給相当分を含めて計4%程度とする」方針を決定しました。また政府は、5年連続となる3%の賃上げを企業に要請しています。本来の賃金交渉は労使の交渉において勝ち取るべきものであり、政府の要請で賃金を上げてもらうものではありません。今一度春闘のあるべき姿を組合員一人ひとりが捉え返すことが必要です。すべての働く仲間との議論を通じ、職場から声・行動にて、本部交渉団を支え要求満額に向けたたたかいを推し進めよう。

今後も全組合員参加の運動にこだわり、業務課題の解決を通じた分会運動の強化と、組織の拡大を目指し、JRに労働組合を残すために労働者らしく、そして労働組合らしく、皆さんと共にさらに強固な組織をつくっていきましょう。

2018年1月1日 元旦  
JR 東日本労働組合  
横浜地方本部  
執行委員長 松田 和秀